

昭和中だより

令和6年3月25日
第13号
文責：
秋元 秀文

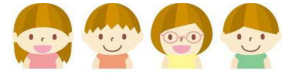


令和5年度 目指す学校像

「生徒の主体性が尊重され、生徒・職員ともに心を寄せ合い、感謝し合える学校」
教育目標：英知・敬愛・鍛錬 校訓：「凡事徹底」「プラス思考」

『新年度へ向けて』～1年間ありがとうございました～

令和5年度が、終了いたします。保護者の皆様には、様々な場面でご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。



令和6年度、昭和中は、また新たな一步を踏み出すことにしました。新年度より、全学年で「男女混合名簿（あいうえお順）」に移行します。男女の性別を超えて、誰に対しても平等に接する態度を培うことをねらいとしています。新年度を、一人一人が新たな気持ちで迎えてくれることを、心から願っています。



『卒業式』(3/13)



55人の卒業を名残惜しむかのような雪が舞う中、第34回卒業式が行われました。2年生から、胸花をつけてもらう卒業生達は、

はにかみながらも、うれしそうな表情でした。厳粛な中にも、温もりを感じることができる、穏やかな卒業式ができましたこと、皆様に感謝申し上げます。ここに、送辞と答辞を掲載し、卒業のお祝いとさせていただきます。皆さん、おめでとうございます。

『送辞』(一部抜粋)

桜の蕾のように、多くの人々が希望に胸を膨らますこの季節。卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。旅立っていく皆さんの立派な背中をこの場に集まり、見届けられることを在校生一同、誇らしく思います。

先輩方が、春の暖かい日差しと心地よい風に導かれ、大きめの制服に身を包み、昭和中学校の門をくぐられてから、早3年の年月が経とうとしています。今、先輩方はこの昭和中学校で過ごしたかけがえのない日々を、昨日のこのように思い出しているのではないのでしょうか。今、この場に立っていると先輩方と共に過ごした数々の思い出が蘇ってきます。

私達が、昭和中生となったばかりで新たな環境に馴染めない頃、「これが昭和中の伝統だ」と行動で示されたあの頼もしい挨拶は、ただ1学年の差と思っていた先輩という存在がどれほど大きいものかと思知らされた瞬間でした。

新型コロナウイルスによる活動制限が緩和されましたが、前例がない中で様々な行事を見事に成し遂げていく先輩方の姿はいつでも頼もしく、そして春を導く日差しのように輝いていました。私達は、先輩方が卒業後に空けた席に座ることがふさわしいと言われるよう、最後までその姿を目に焼き付け、これからの昭和中を前進させていきます。

今日、皆さんは小学校、中学校と共に道を歩んできた仲間と共にゴールテープを切り、今度はこれまでと比べ物にならないくらい長い道りのスタートラインに一人一人が立つと思います。しかし、道は違えど心の中にはどんなときでも支え合い、励まし合った仲間の笑顔が刻まれているはずです。その思い出はどんな困難が立ちばだかつたとしても先輩方の生きていく力になってくれると思います。私達も立ち止まってしまったときには、頼りになる先輩方の姿を思い浮かべ、どんなこ

ともにも挑戦し、今よりさらに進化した昭和中学校を創り上げていきます。

いよいよ、お別れの時が来ました。卒業生の皆さん、今まで昭和中学校の顔としてどんなときでも私達に手本となる姿を見せてくださり、本当にありがとうございました。皆さんの新たな道での幸多き未来とさらなるご活躍を祈念して、送辞とさせていただきます。 在校生代表 堤 倅衣

『答辞』 (一部抜粋)

暖冬といわれた冬も終わり、春の優しい日差しが降り注ぐこの佳き日、私達五十五名は昭和中学校を卒業します。この度は、私達のためにこのような卒業式を挙げてくださったこと、並びに、ご多用の中、多くの来賓の皆様、保護者の皆様、在校生の皆さんにご臨席いただきましたこと、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

入学式から今日までの三年間を振り返ってみると、数え切れないほどの思い出が蘇ってきます。三年前の春、中学校生活への大きな期待と不安を持ちながら、慣れない制服を着て入学式を迎えました。小学校とは違う厳しさや何もかもが新しい環境に、戸惑っていた私達でしたが、先生方や先輩方に、人間関係や部活動、勉強などの多くの場面であるべき姿や必要なことを教えていただき、徐々に中学校での生活に慣れることができました。

そして一、二年生が終わり、お世話になった先輩方が卒業し、最上級生となりました。部活動や委員会などの様々な場面で集団をまとめることが増え、責任感を持って取り組むことができました。我慢の続いた学校生活でしたが、コロナ禍収束の象徴の一つと言える、修学旅行に行くことができました。それまで教科書でしか見ることのできなかつた多くの歴史的な建造物をみたり、狂言や京舞などの伝統芸能に触れたりして、大変貴重な経験をすることができました。また、友達と寝食をともにし、一日を通して感じた感動や驚きなどの感情を共有できた時間は今でも良い思い出です。

このように、コロナ禍前の学校生活を知らなかった私達は、正解が分からないままも凡事徹底を心がけ、必死に努力してきました。悩み、工夫し、試行錯誤を重ね、新しい昭和中学校を作っていくなかで、人間として大きく成長できたのではないかと感じています。こうして、今までの出来事を思い起こしてみると、私達がたくさんの貴重な経験を積むことができたのは、コロナ禍前の学校生活を取り戻そうと御尽力いただいた多くの方々のおかげであると、改めて思うことができました。

どんなときも熱意のある指導をしていただき、手を差し伸べ、私達に寄り添ってくださった先生方。これからも先生方から伝えていただいた物事への真剣さや熱意を忘れずに、私達は日々生活していきます。三年間、本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。短い期間でしたが私達についてきてくれて、本当にありがとうございました。中学生という時期は、一生で一度のとても貴重で短い時間です。仲間との時間を大切に、先生方や大切に育ててくれる人への感謝を忘れず、一日一日を大切に過ごして下さい。そして、「優進華咲」この言葉のように、優しく協力し合って全員が花のような笑顔で過ごせる学校、誇りを持てる昭和中学校にして下さい。今までありがとうございました。

そして、いつも私達を一番に思い、育ててくれた家族。日頃から勉強や部活動など、生活の全てにおいていつも的確に助言をしてくれる存在であり、受験期には私達の体調をいつも気にかけ、どんなときも味方であり、支えてくれました。本当にありがとうございました。進学先を決めるといふ初めての大きな自己決定を、悩み、迷いながらも果たすことができた私たちですが、この先もきっと、迷ったり立ち止まったりしてしまうことがあると思います。その時は、そっと背中を押して下さい。これからもどうぞよろしくお願い致します。

最後に三年間を共に過ごした友達。今まで目標に向かって切磋琢磨してきた勉強や部活動の時間、他愛のない話をして笑いあった休み時間、一緒に過ごすことができた全ての時間がかけがえのない思い出です。これからは、それぞれが自らの道を進みますが、出会いと別れを大切に、これからもお互い切磋琢磨して、頑張りましょう。最後になりますが、これからの昭和中学校の益々の発展と、諸先生方を始め、地域の方々、在校生の皆さん、今まで支えてくださったそれぞれのご家族の皆様のご健康と御多幸を祈念し、私達の明るい未来を願い、全ての方々への感謝の気持ちを込めて、答辞といたします。 卒業生代表 吉澤 琉生